

絶滅危惧種**コアラ**の生息地  
 レアード州有林を破壊する  
**出光ボグラライ**石炭鉱山開発  
**ホワイトヘイヴン**石炭鉱山開発



**We Love Koalas but  
 Japan-Australia Joint Coal Projects are Destroying  
 Threatened Koala Habitats and Local Communities.**

**日本企業が大きく加担、豪州炭鉱開発がもたらす  
 自然生態系と地域社会への甚大な影響**

世界の気候変動対策とは逆行し、現在、日本では  
 石炭火力発電が拡大し、石炭輸入の2/3を豪州に依存。

その採掘現地で起こっているのは・・・

- 国の絶滅危惧種に指定されているコアラの生息地の破壊
- 土地権を主張する先住民社会に対する深刻な脅威
- 森林破壊と石炭燃焼による気候変動のリスク
- 地域コミュニティの分断や地下水の枯渇
- 事業によって生じる煤じんと騒音



連邦政府が絶滅危惧種に指定している  
 希少なボックスガムのユーカリ生態群

コアラは豪連邦環境法に基づく  
 「危急種」に指定されている



Front Line Action on Coal (FLAC)  
 URL: <http://frontlineaction.org/>  
 熱帯林行動ネットワーク (JATAN)  
 URL: <http://jatan.org>



Contact Us: Email [info@jatan.org](mailto:info@jatan.org) / TEL 03-5269-5097

わたしたちはレアード州有林の破壊に加担している 国際協力銀行(JBIC)、  
 出光興産、伊藤忠、電源開発に事業の停止を要請します。

- 熱帯林行動ネットワーク(JATAN)
- フロント・ライン・アクション・オン・コール(FLAC)

### 出光興産ボガブライ石炭鉱山【Idemitsu Australia Resources Pty Ltd】

出光興産は当地において2006年から一般炭の生産を開始し、2010年から生産量を拡大し2014年計画では年間約540万トン生産。最終的には年間650万トンまで拡張の予定。2014年8月に鉱山権益10%を中国電力の現地法人に譲渡。JBICは炭鉱拡張プロジェクトに対し日本企業によるエネルギー資源の開発促進を支援する目的から、融資金額350百万米ドルを限度とする貸付契約を締結している。鉱区面積は約3,872ヘクタール。露天掘りの拡張計画では1,535ヘクタールの天然植生を皆伐する予定。

### ホワイトヘイヴン社モールズ・クリーク炭鉱【Whitehaven Coal Limited - Maules Creek Project】

ボガブライ炭鉱に隣接するホワイトヘイヴン社のモールズ・クリーク炭鉱には、伊藤忠商事と電源開発(J-POWER)が権益のそれぞれ15%、10%を保有している。2014年から開発がスタートし、12月にはニューキャッスルの積出港に向けた鉄道輸送の試験運転がおこなわれた。州有林の中核で2,000ヘクタールの露天掘りをおこなう。最大で1,300万トンの年間生産が可能といわれ、産出石炭の燃焼による温室効果ガスの排出量はボガブライ、両社の合弁事業タラウォンガ(Tarrawonga: 出光 30%/+ ホワイトヘイヴン70%)の二つを併せて、CO2換算で年間6,000万トンと推計される。

### 先住民グループが聖地の破壊に強い懸念

州有林周辺には数万年前からゴメロイの先住民たち居住しており、地球上で最も古くから継承されている文化を守っている。ゴメロイのグループは、モールズ・クリークをはじめとする多くの炭鉱開発企業のサイトをふくむエリアの土地に対して先住権を請求している。かれらは炭鉱事業によって州有林内のかれらの聖地が破壊されるのではないかと深く憂慮している。実際、ゴメロイのコミュニティはオーストラリア連邦政府による緊急的介入を要請しており、「アボリジナル・トレス諸島島民文化遺産保護に関する法」に基づいて先祖の埋葬地をふくむ、開発によって影響を受ける恐れのあるエリアの破壊を食い止めようとしている。モールズ・クリークの炭鉱事業はゴメロイの伝統的な土地保有による文化遺産を壊滅させようとしている。



【写真：“Scar Tree”と呼ばれる聖なる樹。業者によってペンキ書きされた】

### 杜撰な代償用地(オフセット)

出光による拡張予定サイト一帯には、連邦政府の環境・生物多様性保護法(EPBC)により絶滅危惧種に指定されている“White Box Yellow Box Red Gum Grassy Woodland”というボックスガムの自生地が分布している。拡張事業では624ヘクタールにも及ぶボックスガムの森林エリアが皆伐される。出光は代償用地として用意する対象地の生態系について第三者アセスメントの結果を環境大臣に提出しなければならなかったが、その評価にはボックスガムの検討がなされていないという。生態学者でもあるフィリップ・スパーク氏は、「オフセット対象地で(伐採予定地と)同等の質と面積の生態系が維持される確証もなしに出光が露天掘りのために絶滅危惧種の森林を破壊するとは驚きだ」と述べている。

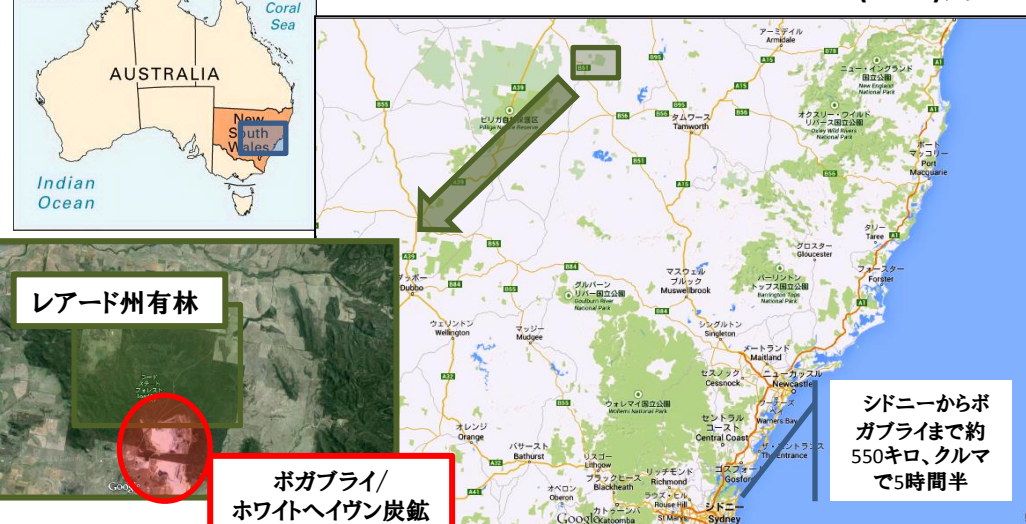


### レアード州有林(Leard State Forest)とは・・・

NSW州北部のリバプール平原で最大の在来植生エリアであるレアード州有林には州・連邦両政府が絶滅危惧種に指定している“White-Box Gum Woodland”が分布し、またオトメインコ(swift parrot)をはじめとする危惧種鳥類やグレーター・ミナガコウモリ(greater long-eared bat)、コアラ(koala)など396種もの固有動物・植物種が生息・生育していることが確認されている。

リバプール平原に数万年前から居住しているゴメロイ(Gomerioi)の先住民たちは、ボガブライをふくむあたり一帯の土地に対して先住権 (Native Title)を請求している。レアード州有林にはかれらの多くの文化的な遺産が存在しているが、一帯の石炭採掘事業によって大きな影響を受けるだろうと言われている。

### オーストラリア・ニューサウスウェールズ(NSW)州



シドニーからボガブライまで約550キロ、クルマで5時間半